

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	7 月	30 日	記入者	仲谷裕巳
調査者名	小倉	仲谷	西田		

文化財名	平隆寺跡				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1975年(昭和50年)3月31日				
所在地	生駒郡三郷町勢野				
所有者 管理者	平隆寺				
員数					
時代区分					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	県道からの進入路に案内板が設置されている。平隆寺門前には説明版も設置されている。				
公開	遺跡は埋め戻されており視認できないが、出土した瓦片は庫裡に保管され見学できる。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 (保存状態については、埋め戻されており確認できない)				
当面の課題	特になし				
今後の課題	特になし				
その他 (由緒など)	別名施鹿園寺(せろくおんじ)とも呼ばれ、聖徳太子建立寺院の一つと伝えられている。発掘調査出土の瓦は飛鳥時代から中世に及んでおり、本遺跡北方1kmに位置する今池瓦窯で焼成されたものである。平隆寺跡は確実に飛鳥時代建立と考えられる寺院跡であり、平群氏の氏寺であったのではないかと想定されている。				
コメント	現平隆寺は江戸時代初期に旧平隆寺跡地に建立された融通念仏宗の寺院である。現参道の東側で創建当時の塔心礎の導入抗と抜き取り穴が出土。また現本堂の下層で東西棟と推定される建物跡が検出されたが、これ以外の遺構は明らかにされなかった。発掘調査による塔の心礎の位置や建物礎石などから四天王寺式伽藍配置ではないかと推測されている。現住職は北側の民地を発掘してその伽藍配置を確認したいとの希望であった。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	7 月	30 日	記入者	仲谷裕巳
調査者名	小倉	仲谷	西田		

文化財名	平隆寺跡
------	------

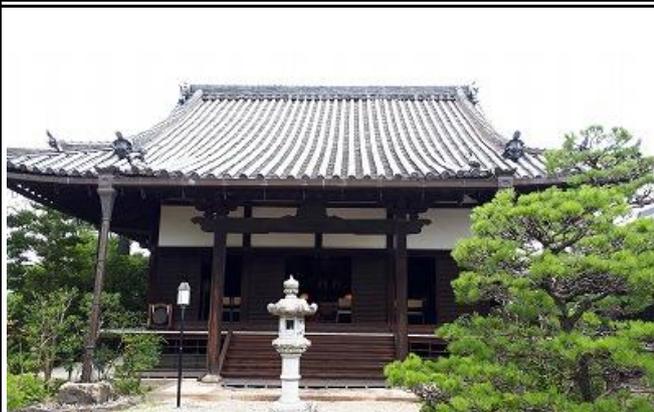
県道からの案内板



平隆寺門前の説明板



現平隆寺本堂



平隆寺南側



出土瓦の展示



出土瓦

